令和6年度 日本大学危機管理学部 個人研究費 研究実績報告書

所属：危機管理学部 危機管理学科

資格：専任講師

氏名：上野山 晃弘

<p>研究課題名</p>	<p>ショーペンハウアー哲学と生命医療倫理の諸課題再考</p>
<p>研究目的及び 研究概要</p>	<p>ショーペンハウアーの倫理学（共苦の思想）に対しては、ニーチェによる同情批判をはじめ、現代においても共感という感情が抱えるリスクを批判する諸思想が登場しており、その批判の射程を精確に見定めることによって、ショーペンハウアー哲学の意義と可能性をあらためて究明することが求められている。また、コロナ禍以降の生命倫理の諸問題についても多様な研究成果が示されており、それら先行研究の成果の意義や妥当性を詳細に検討することも必要である。 本研究では、以上のような問題意識のもとで、基礎的な哲学研究を進めると同時に、現代社会の諸課題、ことに生命医療倫理の諸課題との関連の中で応用倫理的な研究を進める。そのことにより、危機の時代における哲学の意義と可能性を探究するということが本研究の目的である。</p>
<p>研究実績の概要</p> <p>研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等</p>	<p>■研究の進捗状況 今年度は、ショーペンハウアー哲学に関する基礎文献と先行研究（とくに共苦思想に関連する「意志」や「身体」概念に関する基礎研究）、および現代の生命医療倫理関係の文献調査を中心に行った。進捗状況としては、予定通り文献読解を進め、考察を進めることはできたが、現時点で研究成果としてまとめるには至っておらず、期日までにはその成果を発表する予定である。</p> <p>■得られた成果 ショーペンハウアーの共苦倫理は、人間だけではなく、自然界を構成するすべての存在者を包括する。全存在が生への意志という観点から統一的に理解され、その身体の脆弱性ゆえに受苦する存在として理解される以上、すでに生じた苦しみがあるならばそれを和らげ、そしてはやこれ以上苦しみを生み出すことがないように、この世界の苦悩とその生成構造に注意深い認識を向け続けることが、共苦の倫理にとって重要な出発点をなす。脆弱性（vulnerability）は、現代倫理学において注目されている共感とケアの倫理にとっても重要なキーワードであるが、カント的な理性主義・普遍主義に対置されたショーペンハウアーの共苦論と身体論はその先駆的概念として位置づけることができ、現代の多元主義・多様性の理念とも親和的であるといえる。——以上の論点に関する調査・考察を発展させることができた。</p> <p>■今後の課題 近代初頭の哲学者たちは、激動の時代のただ中で新たな危機に直面し、自らの哲学を創造してきた。同時代に生きた他の哲学者たちとの比較対照の中でショーペンハウアー倫理学の意義をさらに精緻に特徴づけること、またその現代的な理論的・実践的可能性についてもさらに考察を進めることが今後の課題である。</p> <p>■研究実績等 今年度は授業や校務のために多くの時間が必要であったため、本研究課題の成果を発表するには至らなかった。期日までには研究成果をまとめ、学会発表等を行う予定である。</p>